

外国人の受入れと社会統合のための国際フォーラム

# 子どもの日本語教育を問い直す

国際交流基金日本語国際センター所長

佐藤 郡衛

# はじめにー自己紹介をかねて

- 1980年代から文化間移動をする子どもの教育の調査研究に
- 「異文化間教育学」を専門
- 東京学芸大学国際教育センターに長年勤務

## 【1990年代～】

- 外国にルーツのある子どもの教育
- 日本語教育のカリキュラム（JSLカリキュラム）の開発など

## 【2010年～】

- 日本にルーツのある子ども＋外国にルーツのある子どもの調査研究
- 「外国人児童生徒の受入の手引き」作成
- 日本語指導の特別の教育課程の制度化

## 2020年4月～

- 国際交流基金日本語国際センター所長に
- 「継承語」教育への関心
- 子どもの日本語教育の問い直しを

## 何を話すかー問題意識

- これまで日本語教育の充実を図ることが喫緊の課題
- 日本語教育の研究・実践の成果の蓄積
- 「日本語を教えること=善」という考えの問い直し
- 子どもの日本語教育を狭めているのではないか
- 学習支援・キャリア支援のあり方の問い直し

# 日本語教育の問い直しの必要性

- 日本語という「特権」を前提にしている
- 日本の学校への適応を促す構造的な仕組み
  - 学校への適応、学習についていくことが大前提
- 子どもの固定的な見方
  - 「日本語ができない」 = 低学力の子ども
- 関係性の固定化
  - 弱者として支援の対象に

# 子どものとらえ方

## 【これまで】

- 移動を子どもの成長・発達にとりマイナスにとらえていないか
- 子どもを否定的にとらえていないか

## 【どうとらえるか】

- 移動を双方向的に
- 適切な支援があれば学習が可能＝積極的な教育的介入
- 発達の多面性に注目（関わりを通して成長、希望ある未来を）

# ことばの教育のとらえ方

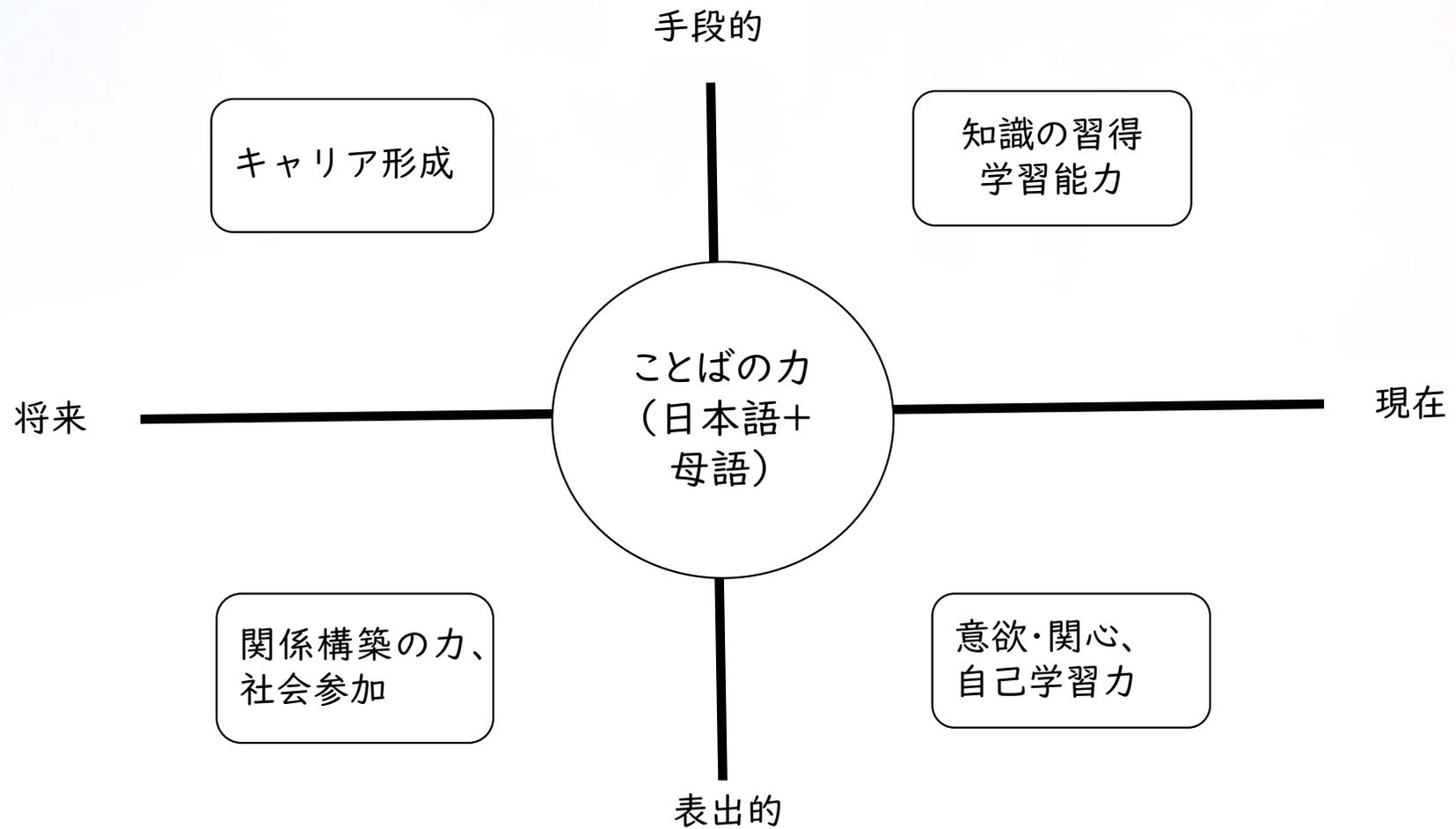
## 【こうした考え方はないか？】

- 「日本語の力を伸ばすには日本語だけを使うようにする」「日本の子どもと同じような日本語の力をつけることを目指す」

## 【違う視点が必要では】

- 「全体としてのことばの力」（考える力、感じる力、想像する力、表す力）の発達
- 母語を資源として位置づけること（複言語主義）
- ことばの多面性に注目

# 学力の多面性への注目



出典: 佐藤郡衛 (2010年) 『異文化間教育』明石書店をもとに作成

# 日本語教育の進め方

## ■子どもの多様な成長・発達を支える日本語教育

- 学習への参加
- 自分の表現
- 友人、先生、大人との関係づくり

## ■子どもの生活と未来を切り拓くための日本語教育

- 学校・社会生活への参加
- アイデンティティの形成
- キャリアの形成へ

## ■日本語の学習は、日本語と母語での経験が合わさって進めるもの（「日本語教育推進法」（第三条第7項）の母語の重要性）

# 学力の多面性に応じた学習支援

- 教科学習の支援
  - 学習の基礎となる興味・関心や学習習慣のための支援
  - 子どもと同士の関わりから学ぶような支援（学習のコミュニティづくり）
  - ロールモデルなどから将来への希望がもてるような支援
- 多様な支援から子どもの「ことは全体の力」を伸ばす

# 子どものキャリア支援

- 子どもを支えるための社会的な資源の創出
  - 人的資源、学習支援のサービス、学校や進路に関わる情報提供、居場所、同じルーツを持つ人同士や母国とのネットワークなど
- 子ども自らが新たなキャリアの視点を獲得できるような支援
- 中長期的な視点からの支援（日本で生きていくための支援）
- トランスナショナルな移動を視野に入れた支援

## 今後の検討課題

- 日本語教育を実践する人材の養成
- 学校、地域、NPO、行政との連携
- 予算措置
- 教科としての「日本語科」と教員免許としての「日本語」の設置へ